

## 共同メディアリリース

### オーストラリア、日本、シンガポールは WTO 電子商取引交渉の進展を歓迎

オーストラリア、日本、シンガポールは、2020年1月24日、スイス・ダボスにおいて、世界貿易機関(WTO)における電子商取引交渉に関する非公式閣僚会合を開催した。同会合では、2020年6月に開催される第12回WTO閣僚会議(MC12)まで及びそれ以降における交渉のモメンタムをどのように構築するかについて議論が行われた。

閣僚たちは、交渉の最初の1年間に於いて良い進捗を達成したことを歓迎し、商業的及びWTOシステム上の双方におけるこのイニシアティブの重要性を強調した。

閣僚たちは、交渉への支持を表明し、MC12までに実質的な進捗を達成することを確実にするため、更に努力を続ける必要があることを強調した。この点について、閣僚たちはMC12までに統合交渉テキストを作成することに合意した。また、閣僚たちは、高い水準の成果を可能な限り多くのWTO加盟国と共に得ることに対する決意を確認した。

革新的で、開かれ、かつ、包摂的な方法で作業を行うことの重要性について言及があった。また、途上国及び後発開発途上国を含む加盟国並びに中小企業・小規模事業者が直面する特有の機会及び課題が強調された。

閣僚たちは、フィリピンを交渉への最新の参加加盟国として歓迎した。現在は、国際貿易の90パーセント以上を占め、かつ、WTO加盟国の過半数を代表する83のWTO加盟国が参加している。

オーストラリアのバーミンガム貿易観光投資大臣は、次のとおり述べた。  
「私は、オーストラリアがこの交渉においてリーダーシップの役割を担っていることを喜ばしく思う。本交渉は、プライバシーその他の消費者保護を拡充しながら、デジタル貿易を促進し、ビジネス界が抱える今日的な貿易ニーズを支えるための世界の環境構築に重大な機会である。」

日本の牧原経済産業副大臣は、次のとおり述べた。

「日本は、データフリーフローウィズトラスト(DFFT)の考え方の下、G20大阪サミットの際に立ち上げた『大阪トラック』を通じ、デジタル経済に関する国際的な議論を促進し、交渉の進展にも前向きな影響を与えたい。」

若宮外務副大臣は、次のとおり述べた。

「日本は、『大阪トラック』の下、交渉のモメンタムを更に高めたい。最近のデジタル貿易に関する合意における成果を基盤とし、MC12での実質的な進捗を得るために、日本は引き続き積極的な貢献を行っていききたい。」

シンガポールのイスワラン通信情報大臣兼貿易担当大臣は、次のとおり述べた。

「シンガポールは、日本及びオーストラリアと共に、世界的な貿易の将来であるデジタル貿易において、交渉をけん引する決意を有している。これは、急速に進化するデジタル分野における新たな課題とニーズに対応するため、WTO のルールブックを現代化する取組である。このため、シンガポールは、他の JSI メンバーと共に、前向きで、かつ、デジタル経済の可能性を解き放つことを可能にする環境を作るため、作業を行っていく。」

#### メディアコンタクト先

##### オーストラリア:

Benn Ayre: +61 428 342 325

Kathryn McFarlane: +61 419 850 201

##### 日本:

Uchida Ryoji: +81 3 3501 5923

Kajiwara Toru: +81 3 5501 8345

##### シンガポール:

Carista Wee: +65 8180 0171